

2025 年(令和 7 年)ズワイガニ漁期前の資源状況

○漁期前の推定資源量(鳥取沖・隠岐北西沖・出雲沖)

松葉がに…前年・平年(直近 5 カ年平均)を上回る。

若松葉がに…前年・平年を上回る。

親がに(雌)…前年並みで平年を上回る。

1. 漁期前の資源状況の根拠となる情報

試験船「第一鳥取丸」による調査結果

9 月 29 日～10 月 29 日にかけて、山陰沖の水深 177m～442mの海域の合計 23 調査点で着底トロール網による漁期前調査を行いました(図 1)。調査海域内における漁獲対象となるズワイガニの推定資源量(単位=万個体)は表 1 のとおり。

※今年の調査期間中は海況が悪い日が多く、調査予定としていた 28 点中、5 点が欠測となった

※例年より採集尾数が比較的多い調査点が多く、資源量の推定結果がやや過大な評価となっている恐れがある

表 1 調査海域におけるズワイガニの推定資源量(単位=万個体)

区分	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	前年比	平年 2020-24平均	平年比
松葉がに(甲幅10.5cm以上)	46.5	47.0	22.2	24.9	28.2	55.7	198%	33.8	165%
若松葉がに(甲幅10.5cm以上)	314.7	172.9	194.2	167.8	266.0	450.1	169%	223.1	202%
親がに(くろこ)	176.7	128.6	104.4	282.9	281.3	316.2	112%	194.8	162%

※くろこ：漁獲対象となる茶黒色や黒紫色をした卵を持ったメスガニ

【松葉がに】

- ・推定資源量：各海域とも増加し、特に出雲沖で大幅に増加したことから全体では前年比 198%、平年比 165% (表 1、図 2 左)。
- ・水揚予想：資源が回復傾向にあるが、今漁期は 11 月の公休日を増やすなど安定供給に向けた資源管理の強化を進めるため、水揚げは「前漁期並みか前年をやや上回る」程度に抑えられる。
- ・サイズ予想：甲幅 10.5～12cm の小～中型個体 (35 万個体) が甲幅 12 cm以上の大型個体 (21 万個体) より多い結果となり、前年に引き続き大型個体は少なく、小型個体中心の水揚げとなる (図 4)。

【若松葉がに】

- ・推定資源量：各海域とも増加し、前年比 169%、平年比 202% (表 1、図 2 中央)。2020 年漁期から漁期の短縮、1 航海当たりの水揚げ枚数を大幅に減らす等の資源管理強化を継続している効果が見られている。
- ・水揚予想：小型のかにの資源量が少ない状況から、今後、資源は減少に向かうと考えられ、来漁期以降に資源を残すためにも、今漁期 (2026 年 2 月) は漁期の短縮 (2 月末まで→2 月 20 日まで) や 1 航海当たりの水揚げ枚数の制限を強化 (700 枚→500 枚) することから、水揚げは「やや減少する」。
- ・サイズ予想：甲幅 10.5～12cm の小～中型個体 (370 万個体) が甲幅 12 cm以上の大型個体 (80 万個体) より多く、小～中型主体の水揚げとなる (図 4)。

【親がに】

- ・推定資源量：鳥取沖で前年より減少、出雲沖で前年並み、隠岐北西で前年より増加し、前年比 112%、平年比 162% (表 1、図 2 右)。
- ・水揚予想：親がににも資源管理強化のため、1 航海当たりの水揚げ枚数を制限する取組を 2020 年漁期から強化しており、今漁期も取組を継続することから、水揚げは「前年並み」。
- ・サイズ予想：個体割合が甲幅 7～8 cmの小型が 92%、甲幅 8 cm以上の大型が 8%の結果となっており、小型個体中心の水揚げとなる。

2. 参考情報

- (1) 鳥取県の沖合底びき漁業による水揚げ量の推移：本県のズワイガニ水揚げ量は 2004 年に 1,587 トンまで増加したが、その後は減少～横ばいで推移している（図 5）。
2024 年漁期の水揚げ量は松葉がに 166 トン、若松葉 34 トン、親がに 334 トン、合計 534 トンで、前年（491 トン）及び過去 3 年平均（531 トン）を上回った。
- (2) （国研）水産研究・教育機構 水産資源研究所（以下、水産資源研究所）の調査結果（調査月：4-6 月）：日本海 A 海域（富山県以西）における 2025 年漁期当初のズワイガニ資源量について、ミズガニ（若松葉）、カタガニ（松葉がに：小型主体）は前年を上回り、メスガニ（親がに）は前年並みで、大型のカタガニの資源量は少ないと推定している（図 6）。
- (3) 大型クラゲ：漁具被害等が生じるほどの大量入網はなかった。

3. 今後の資源状況

水産資源研究所による資源評価調査（4-6 月）では、日本海 A 海域（富山県以西）における 2025 年のズワイガニ資源量は、カタガニ（小型主体）、ミズガニの資源量が昨年を上回り、資源が増加傾向にあると予想している（図 6）。一方で、小型の若齢がにの加入が少ない状況も明らかになっており、2026 年頃から資源は再び減少に向かうことが予想されている。

そのため、今漁期は将来を見据えて、資源が回復傾向にあるカタガニの漁獲は抑えめとし、ミズガニ、小型の若齢がにの混獲が多い海域では操業を控えて漁場を移すなどのミズガニの混獲回避がより一層重要な状況となっている。

ホームページ 本報告は水産試験場ホームページに掲載しており、トップページの「調査研究」からアクセスできます。

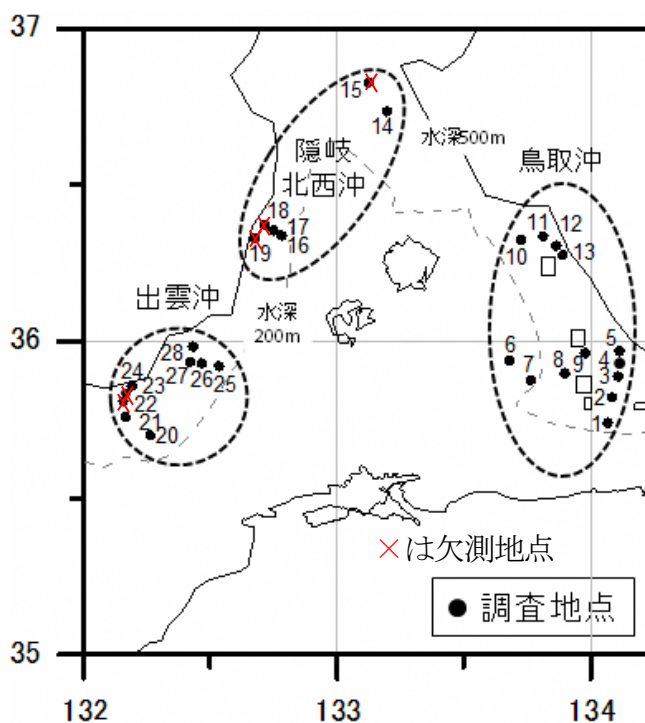


図 1 試験操業位置

その他

2015 年漁期から松葉がにのうち、大きさ・品質・型とも最上級の松葉がにをトップブランド「特選とっとり松葉がに五輝星」として販売開始。

（五輝星の基準）

大きさ	甲幅 13.5cm 以上
形状	脚が全てそろっているもの
重さ	1.2kg 以上
色合い	鮮やかな色合い
身入り	身が詰まっていること

2024 年漁期は約 31.2 万枚水揚げされた松葉がにの中から、158 枚（平均 6.5 万円/枚、最高額 60 万円/枚）が五輝星に選定された。本調査結果から大型の松葉がに（甲幅 13.5cm 以上）の資源量は前年より極めて少ない（前年比 12.3%）結果となったことから、今漁期の五輝星の希少価値はより高くなることが予想される。

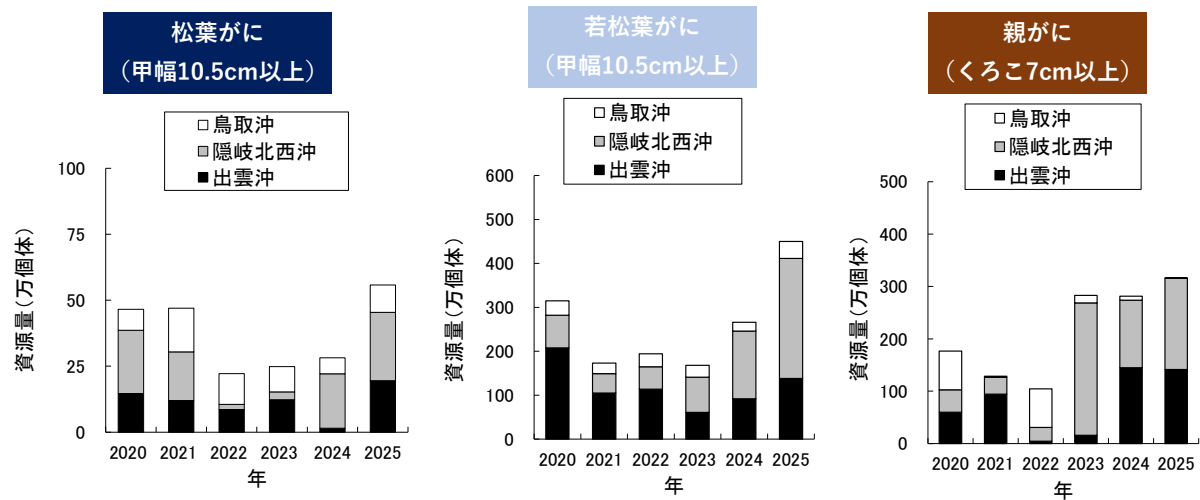


図2 年別海域別の資源個体数 (2020-2025 年)

オス

メス

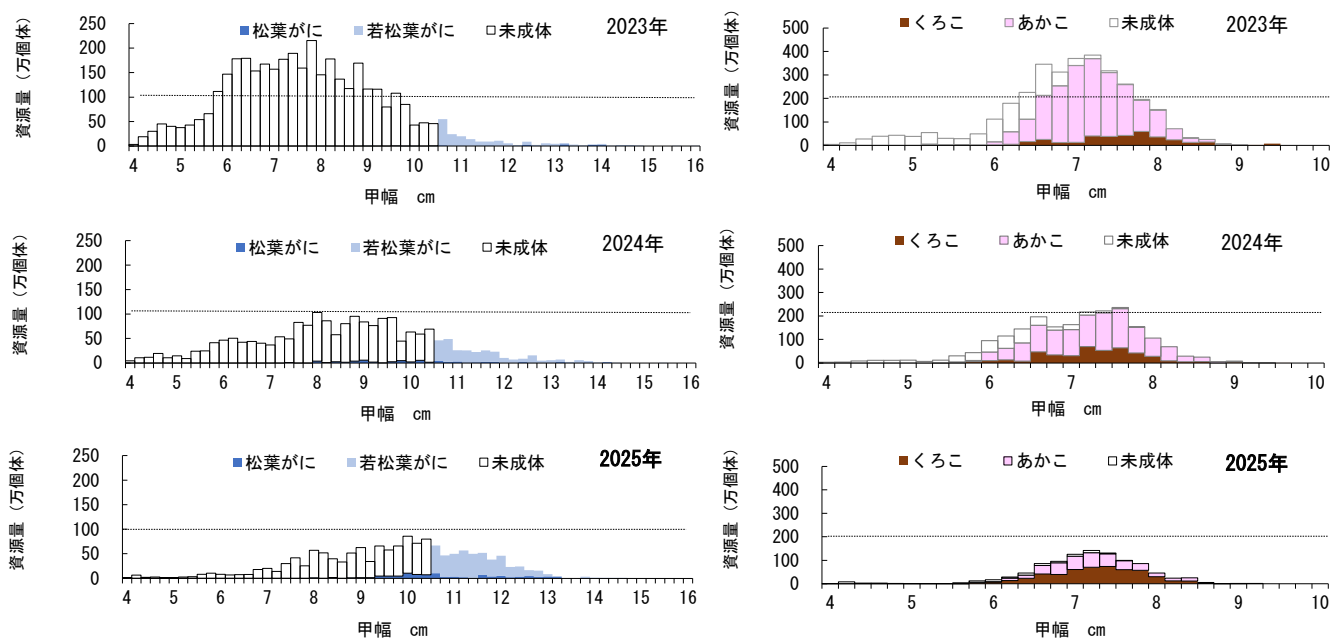


図3 調査海域全域におけるズワイガニ甲幅組成の推移 (2023-2025 年)

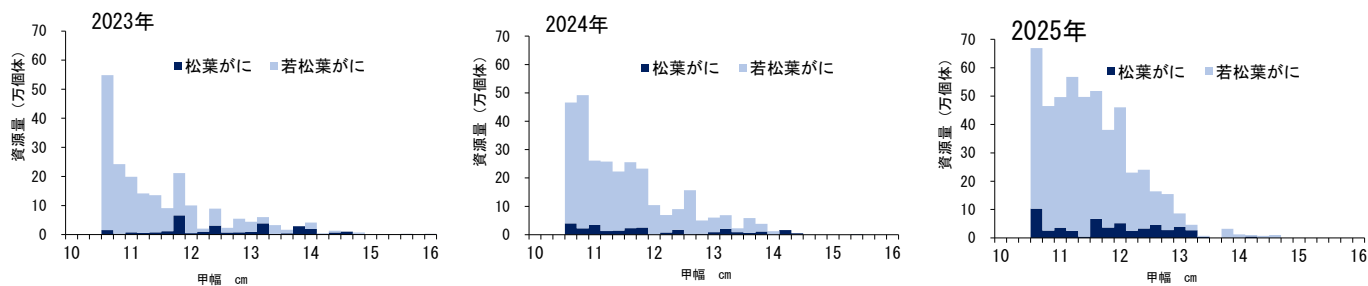


図4 調査海域全域における漁獲対象サイズ (甲幅 10.5cm 以上) の雄ズワイガニの甲幅組成の比較 (2023~2025 年)

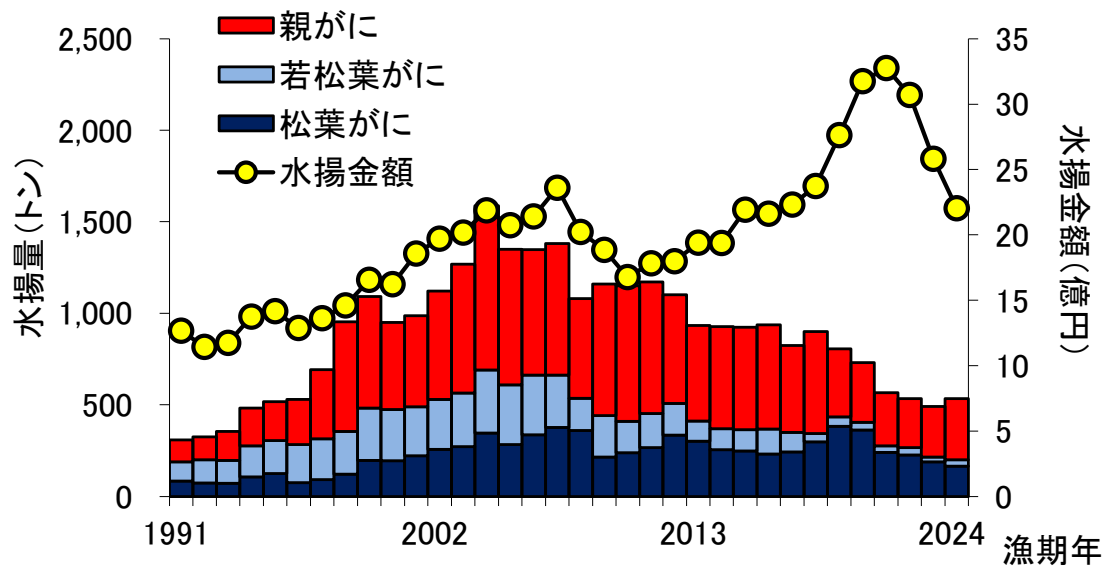


図5 鳥取県におけるズワイガニの水揚量（漁期年：11月6日～翌年3月20日）

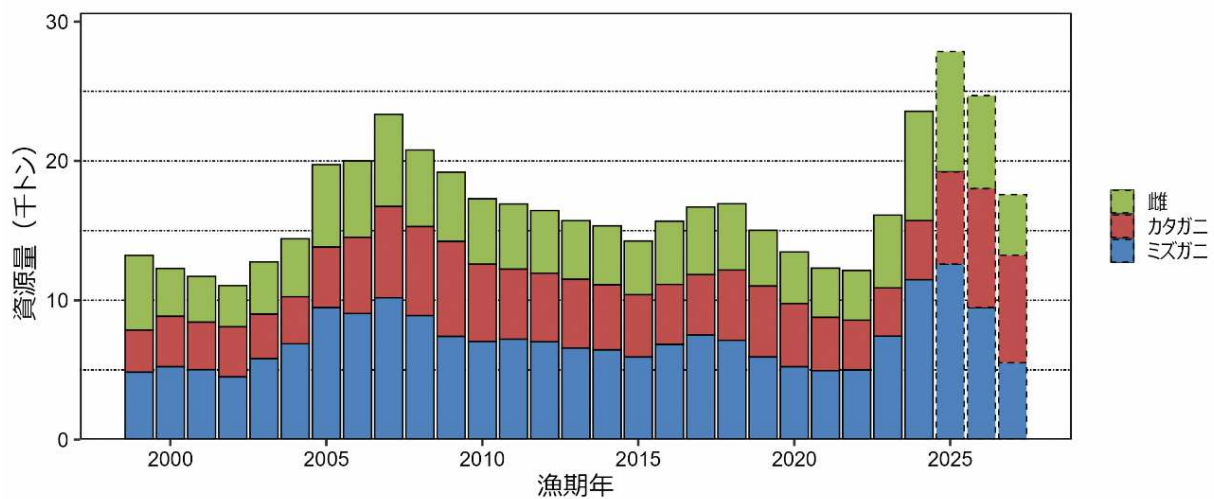


図6 日本海A海域（富山県以西）におけるズワイガニの推定資源量
 ※2025年以降（枠点線）は現状の漁獲圧を仮定した前進計算に基づく予測値
 （水産研究・教育機構 水産資源研究センター 底魚資源部 作成資料）